

評価領域	研究
------	----

重点目標	将来の社会参加につながる、地域資源を生かした授業づくりの推進 ～「せんぼくいいきプロジェクト」の実践を通して～	P
現 状	・3年間に渡る分教室時代から、「地域が教室」を合い言葉に、地域の人々との日常的な交流活動や地域に出かける学習活動を推進してきた。その結果、児童生徒と地域の方々との交流やつながりが深まるとともに、児童生徒の地域への興味や関心が高まってきている。	
具体的な目標	・各学部において、「指導計画や単元・題材の検討・改善」、「児童生徒の変容に基づいた授業の評価」を行いながら、地域資源を生かした授業づくりを積み重ねることで、児童生徒の社会参加につながる力を育てる。	
目標達成のための方策	○日々の授業実践 ○全校研究会、学部研究会 ○全校授業研究会、学部授業研究会	

具体的な取組状況	○日々の授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」や、研究対象の教科等の指導計画の確認と修正（高等部の学校設定教科「観光」の目標と内容の整理を含む） ・「研究対象の教科等の授業提示」（指導主事計画・要請訪問）と授業改善 ・各学部における「育てたい力」の明確化と、それらを育てための地域資源活用の検討と実践 ○全校研究会（年4回）、学部研究会（年12回） <ul style="list-style-type: none"> ・全校・学部研究の計画検討 ・学習指導案基本様式の説明と確認 ・各学部ごとの研究推進状況の確認 ○全校授業研究会、学部授業研究会（小1回、中1回、高3回） <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の授業提示（指導主事計画訪問含む） ・単元構成検討、指導案検討 ・各学部における、「育てたい力」を育てための支援の手立てについての協議 	D
達成状況	○児童生徒の「育てたい力」を育てための授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・各学部において、児童生徒の実態に応じ活用する地域資源の選定とその活用方法について検討し、授業実践に生かした。 ・指導計画の立案や学習の場の設定、教材・教具について、話し合いをもとに工夫や改善を行った。 ・児童生徒の学習の足跡を残すための方法と指導者側の授業記録の取り方について実施したが、効果的に活用するためには、今後の検討と改善が必要である。 ○教師自身の授業力向上のための授業研究会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・高等部では指導主事要請訪問を行い、学校設定教科「観光」の目標や内容の整理をするとともに、事前・事後学習を含めた授業計画の見直しを行った。 ・小学部と中学部では、他学部からの参加者を募って授業研究会を行い、指導計画や手立ての改善を行った。授業研究会の計画が遅れたため、全職員が参加する会が実施できなかった。 	

自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 授業づくりを研究の柱としたことで、全員が、「地域資源を生かす」ことを意識して授業に取り組むことができた。 各学部において「育てたい力」の明確化と指導計画や手立ての検討に力を入れたことにより、児童生徒が地域に興味・関心を示したり、地域での学習活動から達成感を得たりする姿が見られた。 地域資源を活用した授業を推進していくことは、教育課程の編成と関連するため、今後は教務部と連携を図り、学部間の学習内容のつながりや指導方法の確認等を全校で行っていきたい。 	C
------	---------------	---	---

↑ 評価基準 ↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> 観光という地域資源を生かした積み重ねは社会参加に大きく影響し、自立への道にもつながるように思われる。 具体的な取組が良好で、達成状況にも効果が見られとてもよいと思う。自己評価した改善点を実行し益々向上して欲しい。 開校1年目という環境で、よい基盤づくりをされた1年だったのではと思う。 「地域が教室」がよい。 先生方が横の連携を図りながら研究主題を全職員で共通理解するなど、きめ細やかに生徒たちと向き合い授業力の向上に取り組んでいる。 多忙な中、全職員が参加していくことに期待したい。 連携ということ大切にしていけることが、改善につながると思う。 本校での成功事例も共有しながら進めていただければと思う。 「育てたい力」という団子の串がしっかりしているのでそれを太くしたり、材質を向上させていく取り組みを継続してほしい。 研修会や研究会などで得られた情報を日々の授業実践で役立てるためにも、学部内での連携等が、なお一層伝えられる工夫が必要と思った。 	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程との関連を意識した授業づくりを計画的に進めていくことができるよう、教務部との定期的な話し合いを重ねながら、研究を進めていく。 全職員での授業づくりを今後も更に続けていくために、他学部の実践にも目を向ける機会として、全校授業研究会を計画する。 	A
-----------------------	---	---